

2. 交流協定

学術交流協定

2013年3月31日現在

協定国	協定先	協定先(アルファベット表記)	協定年月日	期間
ギニア	ギニア科学技術庁	La Direction Nationale de la Recherche Scientifique et Technique	2004.1.28	5年間 (自動継続)
ギニア	ボソソウ環境研究所	L'Institut de Recherche Environnementale de Bossou (IREB)	2004.1.4	5年間 (自動継続)
スリランカ	スリジャヤワルデネプラ大学 社会学人類学教室	University of Sri Jayawardenepura (Faculty of Arts, Department of Sociology and Anthropology)	2005.8.18	10年間
台湾	国立屏東科技大学 野生動物保全学研究所	Institute of Wildlife Conservation National Pingtung University of Science and Technology	2008.1.18	10年間
タイ	タイ王国動物園協会	The Zoological Park Organization, Thailand	2009.9.16	5年間 (2009.10.1～)
大韓民国	ソウル大公園(ソウル動物園)	Seoul Grand Park (Seoul Zoo)	2010.4.28	—
タイ	チュラロンコン大学理学部	Faculty of Science, Chulalongkorn University	2010.5.24	5年間 (自動継続)
コンゴ民主 共和国	生態森林研究所	The Research Center for Ecology and Forestry, Democratic Republic of Congo	2010.9.15	5年間
インドネ シア	アングララス大学理学部	Department of Biology, Faculty of Science, Andalas University	2011.4.27	5年間 (2011.4.1～)
バングラ デシュ	野生生物保護局	The Wildlife Trust of Bangladesh, Bangladesh	2011.3.12	5年間 (2011.4.1～)
タイ	カセサート大学理学部	Faculty of Science, Kasetsart University	2011.4.25	5年間 (2011.5.1～)
スイス	チューリッヒ大学獣医学部	The University of Zurich, Vetsuisse Faculty, Clinic of Zoo Animals, Exotic Pets and Wildlife	2012.6.20	3年間 (自動継続)
コンゴ民主 共和国	キンシャサ大学理学部	Faculty of Science, University of Kinshasa	締結中	5年間 (自動継続)

共同研究協定

日本	財団法人名古屋みなと振興財団 (名古屋港水族館)		2009.7.3	—
日本	日本モンキーセンター		2012.10.15	—
マレーシア	オランウータン島財団	Orang Utan Foundation	2010.11.1	—
マレーシア	ブラウバンディング財団	Pulau Banding Foundation	2010.11.1	—
マレーシア	サバ財団、ペトロリアム・ナシヨ ナル株式会社(ペトロナス)、サバ州 森林局、サバ州野生生物局、マレ ーシア科学アカデミー	Yayasan Sabah, Petroliaam Nasional Berhad(Petronas), Sabah Forestry Department, Sabah Wildlife Department, Academy of Sciences, Malaysia	2011.6.29	—

3. 学位取得者と論文題目

京都大学博士(理学)

澤田晶子(課程) : Digestion and feeding ecology of Japanese macaques (ニホンザルにおける消化と採食生態)

鴻池菜保(課程) : 霊長類のリズム情報処理メカニズムの解明

山梨裕美(課程) : Welfare assessment of captive chimpanzees: Integrating behavioral and physiological measures (チンパンジーにおける動物福祉評価 : 行動学的指標と生理学的指標の統合)

西岡佑一郎(課程) : The mammalian fauna and paleoenvironmental change in the late Neogene Irrawaddy sediments of central Myanmar (ミャンマー中部の新生代後半イラワジ層における哺乳類相と古環境変化)

Paula Ann Pebsworth (論文) : An investigation of geophagic and ranging behavior of chacma baboons (*Papio hamadryas ursinus*) living in a human-modified habitat (人手の加わった地域に棲息しているチャクマヒヒ(*Papio hamadryas ursinus*)の土食行動と遊動に関する研究)

京都大学修士(理学)

植田 想：チンパンジーにおける「盲視」

奥田泰弘：アデノ随伴ウイルスベクターを用いた霊長類神経系への遺伝子導入

櫻庭陽子：運動機能障害をもつチンパンジーにおける認知課題を利用したリハビリテーションとその評価

Israt JAHAN：西シロマユテナガザルの細胞遺伝学的研究：逆位と核小体形成部位の重複変異

田中美都：自閉症の児童がもつ模倣の困難に対する支援方法の検討

徳山奈帆子：餌付けニホンザル個体群における、転嫁攻撃の機能的意義

濱田飛鳥：周年結実性のアコウ果実の一年を通じた利用パターンはヤクシマザルと鳥で異なる

原 暢：トランスポゾンの増幅を伴ったゲノムの再編成

韓 昭晶：メスチンパンジーの社会行動の柔軟性に関する研究

柳 興鎮：ボノボのメスのライフヒストリーと発情状態が社会行動におよぼす影響に関する研究

4. 外国人研究員

招へい外国人学者・外国人共同研究者

CD Dahl（ドイツ連邦共和国、マックスプランク生物サイバネティクス研究所・研究員）
(2010.10.1～2012.9.30)

受入教員：友永雅己

研究題目：霊長類における顔認知および社会的認知に関する比較認知科学的研究

JR Flanders（英国、ブリストル大学・博士研究員）
(2012.5.12～2012.12.11)

受入教員：古市剛史

研究題目：森林コウモリに関する離合集散行動と社会的複雑性を解明する統合的アプローチ

H Bouchet（フランス共和国、セント・アンドルーズ大学・博士研究員）
(2012.8.20～2014.8.19)

受入教員：正高信男

研究題目：野生ニホンザルの同種内—異種間コミュニケーションの様相に関する比較認知科学的研究

WI Sellers（英国、マンチェスター大学・上級講師）
(2012.9.3～2012.10.2)

受入教員：平崎鋭矢

研究題目：霊長類ロコモーションの仮想進化モデルの構築

ME Kret（オランダ王国、アムステルダム大学・博士研究員）
(2012.11.26～2013.1.7)

受入教員：友永雅己

研究題目：情動表出と認知の多様性に関する比較認知科学的研究

CFE Watson（京都大学霊長類研究所・研究員（特別教育研究））
(2012.11.30～2013.11.29)

受入教員：松沢哲郎

研究題目：霊長類における任意慣習と意思疎通ジェスチャーの文化的伝達